

1.商品の概要

- この商品は日本消防検定協会の試験に合格した鑑定品（住宅用火災警報器）です。消防法に規定された大規模な建物に使用する「自動火災報知設備」には代用できません。
- この商品は初期火災の煙を感じて警報音で知らせる住宅用火災警報器です。消火装置や火災防止機器ではありません。火災などによる損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
- また、次のような火災は感知できないことがあります。
- ・火のまわりの早い火災
- ・爆発的な火災
- ・ガス漏れ、薬品火災、電気火災など
- ・煙の発生が少ない火災
- お取り付けいただいた部屋、廊下などの部分的な警戒になりますので、万一の火災に対してより効果を発揮させるためには、必要に応じて複数の場所にお取り付けいただくことをおすすめいたします。

2.安全上のご注意



警告

取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が死亡または重傷を負う可能性がある場合、または機器に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合。



注意

取り扱いを誤った場合に、取扱関係者が軽傷を負うか物的損害が生じる可能性がある場合、または機器に悪影響を及ぼす可能性がある場合。



警告

○屋外では使用しない。屋内専用です。漏電や火災の原因になります。

○殺虫スプレーや化粧品スプレーなどを直接警報器にかけない。

誤報や故障の原因になります。

○警報器のすき間に針金などを差し込まない。

機器に重大な悪影響を及ぼすおそれがあります。

○警報器は分解、改造を絶対にしない。

機器に重大な悪影響を及ぼすおそれがあります。

○取付ネジ、クギの取り扱いは乳幼児や子供の手の届かない場所で行う。

誤飲やケガのおそれがあります。



注意

○音孔に耳を近づけて警報音を聞かない。

聴力障害などの原因になるおそれがあります。

○電池を接続する際、または警報器の取り付け、取り外しの際は音孔に耳を近づけない。

誤ってボタンが押されると警報音が鳴り、聴力障害などの原因になるおそれがあります。

○音孔をテープなどでふさがない。

十分な警報音量が確保できないおそれがあります。

○警報器を落下させたり、衝撃を加えない、故障の原因になります。

○警報器に傷を付けたり、ペンキなどでの塗装を絶対にしない。

機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。

○多量のガスが発生する殺虫剤などを使用する場合は、警報器を取り外し丈夫なポリ袋などに入れ、煙が入らないようにしてください。火災ではないのに火災警報音が鳴る原因になります。

○殺虫剤散布後は警報器を元の位置に取り付け、テストをしてください。

○使用しない取付ネジやクギは、放置せず適切に処分してください。

○ケガをするおそれがあります。

専用リチウム電池について



警告

○必ず専用電池を使用する。

故障の原因や発火、漏液、発熱、破損のおそれがあります。

○電池を火中や水中に投入したり、加熱、分解、改造、充電、はんだ付けなどをしない。

発火、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。

○電池の交換は乳幼児の手の届かない場所で行う。

誤飲のおそれがあります。

○必ず電池のコネクタを接続して使用してください。

○電池からの漏液が目に入ったり皮膚に付いた時には、ただちに水洗いし、医師に相談してください。

○電池のフィルムは、はがさないでください。フィルムは電池を保護するためのものです。

3.各部の名称と働き

・取付ベース、フック

警報器を天井または壁に取り付けるために使用します。

・表示灯

点滅します。

・煙流入口

・ボタン

警報音停止時、テスト時に使用します。

・音孔

・引きひも(約80cm)

(オプション)

警報音停止時、テスト時に使用します。

付属品



取付ネジ(2本)



クギ(2本)



専用電池(フィルムをはがさないでください)

※警報器に組み込んであります。

使用時は警報器との接続が必要です。

取扱説明書(本書)

4.取付場所について



警告

○雨水のかかる場所、浴室や脱衣所などの高湿度環境または水蒸気や結露の発生する場所には取り付けない。誤報や故障の原因になります。



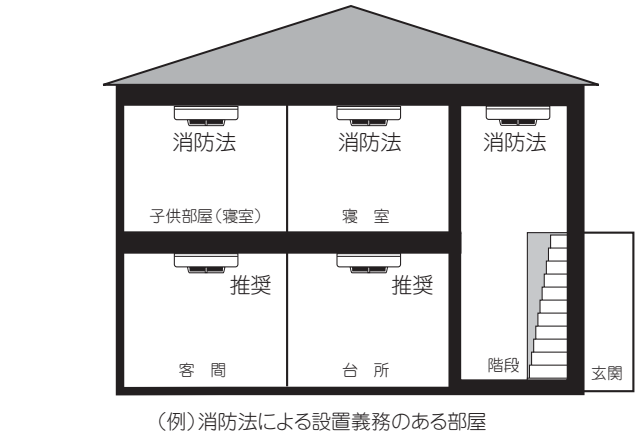
注意

○天井や壁の補強材が通っている場所を確認の上、取り付け。

落下のおそれがあります。

■寝室・居室・階段・台所などに取り付けてください。

消防法では、「全ての寝室」と「階段」に設置することが義務付けられています。その他の部屋については、各市町村の条例に基づいて取り付けてください。



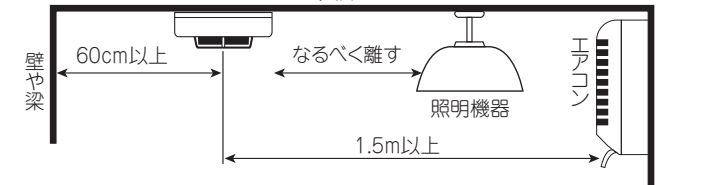
(例)消防法による設置義務のある部屋

2階建ての場合は、2階の階段の降り口の天井または天井に近い壁に取り付けると、より効果的です。

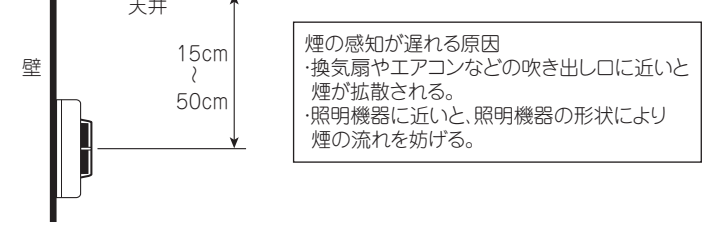
■警報器のボタンが操作しやすい位置に取り付けてください。

居室の場合は各部屋の中心に取り付けると、より効果的です。取り付けの際は、下記の事項に注意してください。煙の感知が遅れる原因になります。

- 天井面は壁や梁から60cm以上離す。
- 換気扇やエアコンなどの吹き出し口から1.5m以上離す。



○壁面は天井面下15cmから50cmまでの範囲。



5.取り付けに向かない場所



空気の流れが激しい場所

・換気扇や扇風機、エアコンの近く

・すきま風の強い所

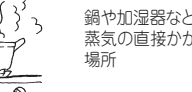


埃や虫の多い場所



暖房器具の近くなど、

燃焼性粒子の発生する場所



鍋や加湿器などの

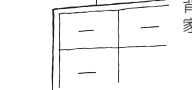
蒸気の直接かかる場所



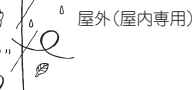
常時、温度や湿度の高い場所



車庫や排気ガスの発生する場所



背の高い家具の上など



屋外(屋内専用)

6.取付方法



警告

○電池の接続や警報器の取り付けは正しく行う。

正常に作動しないおそれがあります。

○安定した台に乗って行う。転倒してケガをするおそれがあります。



注意

○電池を接続する際、または警報器の取り付け、取り外しの際は音孔に耳を近づけない。

誤ってボタンが押されると警報音が鳴り、聴力障害などの原因になるおそれがあります。

○警報器の取り付け、取り外しの際は警報器の外周を持つ。

煙流入口付近を持つと、破損するおそれがあります。

○壁に付属のクギで固定する場合は十分に気をつける。

ケガをするおそれがあります。

○フックを取り付け面側に曲げない。フックが警報器から外れて落下し破損したり、ケガをするおそれがあります。

○日頃人の居ない部屋に取り付ける場合は警報音が聞こえるかを確認の上、取り付けましょう。また、次のような場合は警報音が聞こえないことがあります。

・就寝中、薬を服用していた場合

・飲酒して就寝した場合

・ドアを開けている時の警報時

・交通、ステレオ、ラジオ、テレビ、エアコンなどの騒音が大きい場合

○取り付け時に発生する埃などが煙流入口から警報器内部に入らないように十分に注意してください。誤作動の原因になります。

■警報器と取付ベースを外します。

警報器を左に回して取り外してください。

■電池を接続します。

警報器側コネクタに電池側コネクタを奥までしっかり差し込んでください。(電池のフィルムをはがさないでください。)

電池を接続すると、「ピポッ」と鳴り、表示灯が光ります。

- 電池の長い線は下図のように中央へずらしてください。
- 取付ベースに取り付ける際、長い線が取付ネジに引っ掛かるおそれがあります。

- 電池を接続して5秒以上経過後にテストをしてください。
- 詳細は「7.テストの方法」をご参照ください。

- 警報器側面の記入欄に油性のマジックペンで設置年月を記入してください。
- 交換時期の目安となります。

■天井に取り付ける場合

- ①天井面の補強材が通っている場所を確認の上、取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。

- ③警報器取り付け後、テストをしてください。
- 詳細は「7.テストの方法」をご参照ください。

■壁に取り付ける場合

- ①壁面の柱、または補強材が通っている場所を確認の上、向きを間違えないように取付ネジで取付ベースをしっかりと固定してください。

- ③警報器取り付け後、テストをしてください。
- 詳細は「7.テストの方法」をご参照ください。

■フックを使用して壁に取り付ける場合

- ①取付ベースからフックを取ってください。

- ③壁面の柱、または補強材が通っている場所を確認の上、フックのクギ穴から付属のクギを通し、2ヶ所打ちつけてください。

- ⑤警報器取り付け後、テストをしてください。
- 詳細は「7.テストの方法」をご参照ください。



警告

○ライターや暖房器具などを使用しない。故障や火災の原因になります。

○安定した台に乗って行う。転倒してケガをするおそれがあります。



注意

○音孔に耳を近づけて警報音を聞かない。

聴力障害などの原因になるおそれがあります。

○引きひも(※1)は強く引かない。

警報器が破損したり、引きひもが切れるおそれがあります。

○引きひも(※1)は斜めに引かない。

警報器が落下し破損したり、ケガをするおそれがあります。

※1:オプション

3日以上留守にした場合は、警報器が正常に作動するかテストをしてください。

